

2026年5月15日

Vision BMW ALPINA : スピード、そして洗練さ

**BMW ALPINA の新時代を告げる、世界に1台のデザイン・スタディ
伝統を現在の目的・造形美・テクノロジーに再解釈**

**BMW ALPINA の本質である「スピード、快適性、洗練さ」をさらに深化
BMW ALPINA の価値を守り、高め続ける姿勢を提示**

ミュンヘン/チェルノブピオ発：2026年「コンコルソ・デレガンツァ・ヴィラ・デステ」にて公開された「Vision BMW ALPINA」は、極めて高い能力と洗練さ、そしてパフォーマンスと快適性の両立を極めてきたブランドの新章を告げるデザイン・スタディである。

BMW グループのデザイン責任者である、Adrian van Hooydonk (エイドリアン・ファン・ホーイドンク) は以下のように語る。「ALPINA は常に、“性能と洗練さ”という非常に明確な考え方を体現してきました。ここでは、スピードと快適性は相反するものではなく、互いを高め合う志です。私たちがこのブランドの新たな担い手として果たす役割は、その独自性を守りつつ、現代の文脈にふさわしい形へと磨き上げていくことです。Vision BMW ALPINA は、これらの資質を節度とモダニティをもって表現できることを示し、ブランドを未来へと導く私たちの方向性を示唆しています。」

デザインとフォルム：スピードのかたち

「Vision BMW ALPINA」は、ブランドのヘリテージを、敬意をもって受け継ぎながら、最先端の創造性で形作っている。全長5,200mmの堂々たるプロポーションは、ワイドで低く、そして自信に満ちた佇まいを生み出す。クーペのルーフラインは、長く、なだらかに傾斜し、そのシルエットはスピードと、4人の大人が快適さを十分に享受できる包容力を同時に示す。体験の核となるV8パワートレインは、ALPINAらしいエキゾースト・サウンドを奏でるように調律され、低回転速では豊かで深く、高回転域では伸びやかに響く。

BMW デザインにおいてミドルサイズとラグジュアリークラス、そしてBMW ALPINAを統括するMaximilian Missoni (マキシミリアン・ミッソーニ) は、次のように語る。「Vision BMW ALPINAでは、ブランドを構成するすべての要素を本質まで蒸留し、徹底してモダンで洗練されたかたちに適用しました。あらゆるディテールが“確かさ”を物語ります。エンジニアリング、素材、そして語りかけるストーリーにおいて、主張は控えめで、近づいて初めて見えてきます。その“純度”と“豊かさ”の相互利用こそが、私たちのBMW ALPINA デザインのアプローチを定義しています。」

フロントは、力強いボリュームと前掲したスタンスによって、定義され、過度に誇張することなくスピードを予感させる。ALPINA B7に遡るシグネチャーである“シャークノーズ”は、BMWのキドニー・グリルを三次元的な彫刻として再解釈し、車体の造形を先導するとともに、静かな自信をもってブランド・エンブレムを包みこむ。

このシャークノーズを起点に、エクステリアは単一の視覚的な軸である、“スピード・フィーチャー・ライン”を中心に構成されている。フロント下部コーナーから6度の角度で立ち上がり、ボディサイドに沿って伸び、リアへと回り込むこのラインは、動きを想起させるだけの主張を備えつつ、洗練さを損なわない統制が保たれている。

ホールマークと原則：「Second Read」がもたらす洗練さ

控え目なディテールは、強く訴えかけることなく、注意深い視線にだけ報いる—この「Second Read」の原則が、Vision BMW ALPINA 全体に貫かれている。

デコ・ラインは 1974 年以來、ALPINA の意匠言語の一部である。Vision BMW ALPINA では、このデコ・ラインを現代的に再構築し、本質へとそぎ落としてクリアコートの下にペイントしている。ブランドを象徴するディテールが、次の時代に向けて、どのように適応し得るかを示す、静かなジェスチャーとなっている。内側へと折り返す面はとりわけ丁寧に扱われ、近づくほどに魅力が増すファーク・メタリックのトーンで仕上げられている。この考え方は、キドニー・グリルの内側にのみクロームを用いた BMW507 から着想を得ている。

シャークノーズにも同じ「Second Read」の洗練さが宿る。内側の面には綿密にスケールされたシグネチャーのデコ・ライン・グラフィックを配し、外周のやわらかなバックライトは作動時にのみ浮かび上がる。

デイトタイム・ランニング・ライトは温かみのあるホワイトの光色で、キドニー周囲の輪郭をなぞる。これはバイエルン・アルプスに差し込む最初の光に着想を得たものである。細身のランプ内部には、シャープなアクセントとして、精緻にカットされたイルミネーテッド・クリスタルが配されている。

楕円形の 4 本出しエキゾーストは健在で、「ALPINA」のレタリングは下部フロント・エプロンに機械加工とポリッシュを施したメタル・エレメントとして再解釈されている。フロント 22 インチ／リア 23 インチのホイールは、1971 年以來 ALPINA の定番である 20 スポーク・デザインを採用している。

インテリアとディテール：建築的な明快さ

キャビンは、空間、素材の質、そしてテクノロジー統合の丁寧さというあらゆる面で豊かさを備えている。レイアウトは建築的なボリュームで校正され、各要素は均質な内装に溶け込ませるのではなく、独立した造形として設計されている。6 度のスピード・フィーチャー・ラインはインテリアにも連続し、ダークトーンの上部セグメントと、明るい下部セグメントを分けている。アルプス地域の生産者から調達したフルフレン・レザーには、デコ・ラインに着想を得たステッチが組み合わされている。

クラフトのディテールは抑制的でありながら緻密に吟味されている。ヘリテージのブルーとグリーンを用いたブリッジ・ステッチは、歴史的なステアリング・ホイールの手縫いから着想を得て、控え目に配され、金属部品には時計製造を思わせる面取り技法を採用し、サテンとポリッシュの仕上げを組み合わせた。精緻にカットされたクリスタルは、クルマの走りを形作る操作系にのみ用いられ、BMW ALPINA が運転体験そのものを重視していることを際立たせている。

リア・コンソールの背後にはガラス製のウォーターボトルが備わり、BMW ALPINA のクリスタル・ガラスが自動で展開する仕組みとなっている。それぞれのガラスには、20 本のデコ・ラインが刻まれ、リムには 6 度のプロファイルが与えられています。隠しマグネットでガラスは保持され、オープンポアのセンターコンソールに柔らかく照らし出される。

快適なドライバーこそ、より速い

ブルカルト・ボーフェンジーペンは、多くの自動車業界が忘れかけていたことを理解していた。それは、快適なドライバーは、より速いドライバーであるということである。この信念は、Vision BMW ALPINA の中核に今も息づいている。ALPINA は、標準の BMW コンフォート設定を超える「Comfort +」を用意し、よりしなやかで洗練されたキャラクターを実現する。そしてその考えは、本モデルにも継承されている。

新しい助手席スクリーンを含む BMW Panoramic iDrive は、ダッシュボード全体に広がり、BMW ALPINA のために特別に仕立てたデジタル UI 言語で構成されている。ヘリテージのブルーとグリーンは、節度を持って導入され、BMW Panoramic Vision のヘッドアップ・ディスプレイ内で、Comfort + から Speed モードへ移行するにつれて強度が増している。背景イメージも同様に入念である。描かれるアルプスの風景は、ブッフローエ (Buchloe) から南を望んだ際に見える山並みを精密に再現している。

ブランドの原点に根ざして

ALPINA の物語は、1965 年にドイツ・ブッフローエで始まった。アルプスの影にある小さなバイエルンの町で、タイヤライター製造の道を歩むはずだった、ブルカルト・ボーフェンジーペンは、高性能チューニングという道を選び、ALPINA を創設した。BMW のロードカーとレーシングカーを磨き上げてきた。創業当初から哲学は明快であり、それは、スピードと快適性は競合するのではなく、補完しあうということだった。耐久レースの世界で、ライバルが軽量化の為に装備を削る一方で、ブルカルトは、ドライバーシートにパディングを追加した。より快適なドライバーこそ、より速い。その洞察は、その後のロードカーへと受け継がれ、長距離を高速で走り続けても揺るがない落ち着きと洗練さは高く称賛されてきた。

ALPINA B7 クーペ：成熟の転換点

1970 年代後半の ALPINA B7 クーペは、転換点となるモデルだった。ALPINA の哲学がラグジュアリーカーへと適用され、以降のすべてのモデルが「贅沢」であることを認められる礎となったのである。

BMW E24 6 シリーズをベースに、長いボンネット、ワイドなスタンス、そしてシャークノーズは静止していても速さを感じさせ、キャビンは 4 人を快適に載せて大陸を横断できる包容力を備えていた。

Vision BMW ALPINA は、この物語の次章にあたる。

BMW グループ内のエクスクルーシブ・ブランド、BMW ALPINA

BMW ALPINA は、2026 年 BMW グループ内のエクスクルーシブ・ブランドとなる。そこには確かな運営体制と明確な責務がある。それは、ALPINA を愛する人々にとっての意味を深く理解し、その本質をこれからの製品へと誠実に受け継いでいくことである。

BMW ALPINA 責任者の Oliver Viellechner オリバー・フィーレヒナは、次のように述べている。

「BMW ALPINA は、BMW とロールス・ロイスの間に位置するポートフォリオの空白を埋め、高級セグメントにおける更なる可能性をひらきます。ALPINA には、強固なレガシーと世界的なコミュニティがあり、私たちはそれを礎に、ブランドが体現する本質、つまり、スピードや快適性、そして洗練さ、を守りながら発展させていく。」

来年には、BMW7 シリーズに着想を得ながらも、紛れもなく BMW ALPINA である最初のモデルを、お客さまが体験できるようになる。